

活動報告

2003年度 活動報告 (2003年4月1日～2004年3月31日)


- ① 会報「Gift of Life」Vol.11 発行 (7月)
- ② 第13回総会開催 (7月29日)
講演「救急現場からみた腎臓提供の変化」
講師／吉永和正幹事
- ③ NPO法人兵庫腎臓友会 第3回大会 後援 (10月5日)
- ④ 健康財団「臓器移植を考える県民大会」後援 (10月17日)
- ⑤ 神戸新聞にカラー—頁広告掲載 (10月19日)
- ⑥ 兵庫県臓器提供懇話会支援
- ⑦ 兵庫県臓器移植推進懇話会支援 (2004年3月28日)
- ⑧ チャリティ—ゴルフコンペ開催

2004年度 (2004年4月1日～2005年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.12の発行 (7月)
- ② 第14回総会及び講演会 (7月31日)
- ③ 健康財団「臓器移植を考える県民大会」共催 (10月16日)
- ④ 神戸新聞に二頁記事体広告掲載 (10月)
- ⑤ 兵庫県臓器提供懇話会支援
- ⑥ 兵庫県臓器移植推進協議会支援
- ⑦ チャリティ—ゴルフコンペ開催
- ⑧ その他

2004～5年度 兵庫腎臓友会 役員・幹事 ※は新役員・幹事 候補

神戸大学理事 医学系研究科 教授	国際ソロブニスト神戸東 兵庫医科大学名誉理事	独立両腎臓移植センター部長
会 長 守 殿 貞 夫	副 会 長 森 村 美 佐 子	福 西 孝 信
兵庫県移植コーディネーター	神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿科学分野 助教授	国際ソロブニスト神戸東 取崩理実クリニック院長
幹 事 赤 井 しのぶ	荒 川 創 一	川 瀬 喬
兵庫医科大学名誉教授	神戸大学大学院医学系研究科 泌尿科学分野 助 手	国際ソロブニスト神戸東 三田一寺泌尿器科医院
杉 本 照 子	竹 田 雅	田 口 隆 子
佐野伊川谷病院 院長	兵庫医科大学総合内科学 腎臓科 教授	兵庫医科大学泌尿器科 講師
中 西 健	兵庫医科大学総合内科学 腎臓科 教授	国際ソロブニスト神戸東 八馬富久子
野 島 道 生	兵庫医科大学泌尿器科 講師	国際ソロブニスト神戸東 安井眼科医医院長
川崎医科大学泌尿器科 講師	兵庫県透析医学会 会長 宮本クリニック 院長	兵庫医科大学救命救急 センター 副部長・講師
藤 澤 正 人	宮 本 孝	安 井 多 津 子
高砂市民病院名誉院長	長久天満診療所	国際ソロブニスト
顧問 後 藤 武 男	会計監査 長 久 謙 三	神戸東会長
		事務局長 安 井 多 津 子



Gift of Life

兵庫腎臓友会 会報

2004.7

Vol. 12

発行：兵庫腎臓友会
住所：〒659-0093 芦屋市船戸4-1ラポルテ4F(安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144



ドナーのこころ

神戸大学理事・医学系研究科 教授
兵庫腎臓友会 会長
守 殿 貞 夫

先日(といっても4月の話になるが)、大阪で行われた日本泌尿器科学会総会で「ドナーのこころ」と題する教育セミナーが行われた。講師は(著書も多数出版されており、皆さん御存じの方も多いと思われるが)春木繁一先生で、精神科医であり、自らが腎不全で維持透析を受けておられる。長年東京女子医大で移植患者さんにカウンセリングを行っておられるが、決して医療者サイドに偏らず、まさに患者の立場でお話が可能な方とお見受けした。当日は生体腎移植におけるドナーのこころについて講演されたが、普段この様な事にかかわることが少ない者からすれば、心洗われる様な感を受けたので、思い出すままに御紹介したい。基本的には、献腎ではなく生体腎移植に関するお話だった。

まずレシビエントがドナーを伴って移植施設に来院される前の段階、すなわち家庭の場においてドナー決定に至る過程に葛藤が生じている可能性があるとの事であった。身内に末期腎不全患者がいると、親の場合は自分がこんな子を生んでしまったという贖罪感が生じ、永久的に維持透析を続けていくことが可哀想だ、何とか助けてあげなければ・・・といった流れて情緒的にドナーが決まる、あるいは血液型が一致している親族に、面と向かって言

えない故、無言の圧力がかかっていたりすることもある。こうした展開でドナーが決まった場合は、その行為を仕方ないと合理化正当化して自発性に乏しい状況で病院の門をたく様であるから、医師は初診の段階でそういったことも頭に入れて対応する必要がある。

そして手術が決定し、入院となるといろんな不安がむくむくと顔を出す。何しろドナーは基本的には健康人なので手術や入院の経験が殆どない。提供後の身体の脆弱化や死への恐れのため自己を被害者と認識したり、臓器提供に対して報酬や補償を要求したい心理が生じたりするものこの時期である。

精神面で様々な紆余曲折を経て手術に至った後、ドナーとレシビエントには共生感が生まれる。しかし、これが行き過ぎると逆にドナーからレシビエントへの介入、過干渉が生ずる。私が自らの体を傷つけてあなたを健康にしてあげたのだから・・・もういつまでも病人ではないのだから・・・腎臓はあげたが愛情はあげなかった等種々の混乱が生じたりもする。

移植後の経過が思わしくない時は、提供自体が誤りだったのではないかと・・・私に原因があるのでは・・・という感覚に苛まれ、それが移植医への敵意となって現れる。まさにレシビエントになりかわっての敵討ちを行うような心境になるのだそうだ。

つくづくヒトという生物は難しいと実感する。皆さんに申しあげたいのは、臓器提供を推進していくことは勿論重要である。しかし、単にくださいというのではなく、提供された臓器にこういったドナーやその家族の思いが詰まっているのですよということを心にとめておいて頂きたい。会長としてではなく、一協会員として自戒を込めてのお願いである。

第14回 総会 及び 講演会のご案内

日 時 7月31日(土) 受付開始 PM4:30～5:00

会 場 ホテルオークラ神戸 有明の間

総 会 PM5:00～5:15

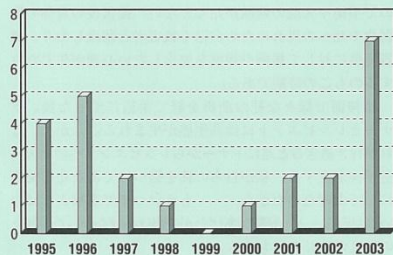
講演会 PM5:15～6:00 講師／申 曾殊先生
兵庫県透析医学会副会長
日本透析医学会災害時透析医療対策部会長
演題「透析医療における透析医会の災害対策について」

懇親会 PM6:00～7:30 会費7,000円

移植医療がごく普通のありふれた医療になることを願って

神戸市立中央市民病院 救急部長
佐藤 慎一

臓器の移植に関する法律が施行されて7年になろうとしています。この間の脳死下臓器提供件数は29件にとどまり、制度がうまく機能していない事は明らかです。また心停止下での献腎移植や角膜移植も制度切り替えの混乱を受けてか全国的に減少しています。ちなみに兵庫県下での腎提供件数の年度推移はグラフのとおりであり、1999年にはゼロ件にまで減ってしまいました。



その後、関係の方々の努力で再び増加のトレンドになりつつありますが、腎移植需要と腎供給の間にあるとてつもなく大きな不均衡状態の大勢には変わりありません。

腎移植希望登録者だけでも兵庫県で500人、日本全体で1万2千人。さらに現在日本で透析医療を受けている方が23万人、毎年1万人ずつ増加しているそうです。透析中に多くの貴重な時間を患者さん達は失い、年に1兆1千億円もの透析医療費を全国民で負担しています。これらの問題を効率的に解決する現時点での最良の方法が腎移植であることは大方の知るところとなりました。

しかしながら、移植のためのドナーは腎移植に限らず絶望的な不足状態が続いています。年間100万人の死亡者のうち脳死下提供者はわずか数名という現実。「臓器提供意思表示カード」配布枚数が総人口とイコールにまでなった現在。今後も従来の普及啓発活動を強化するだけでは、新たな展開を切り開けない事は容易に想像されます。

一方、多くの方が臓器移植に賛成している事は各種の世論調査からも明らかです。彼ら賛同者がドナーになるのを妨げているものは、移植のしくみがそぐわないのではないかと考えざるを得ません。現在の移植のしくみの中で、レシビエント、移植医、コーディネーターに比べて、ドナー側への社会的配慮があまりにも乏しいと思います。

提供側へは愛、奉仕、無償のギフトを求め、結果として提供側へ過大な負担を強いていることに気づいて下さい。このスタイルでは移植医療播種期ならまだしも、普通の医療としては根づくはずがありません。ドナーに対しては、レシビエントからの感謝の言葉だけではなく、社会全体で形ある顕彰をすべきだと考えます。末代までの誇りとしてお墓や位牌に記録を残したり、使途自由の金子を差し上げるのもひとつの方法でしょう。さらに過酷な心身的負担を担っていただいた提供側医療機関へも、社会的貢献に対する形ある顕彰・ご褒美が望まれます。医療費削減に大きな役割を果たしたのですから、保険診療上の「臓器提供病院加算」などを提供実績に応じて基金から新制度として給付してゆくというのも自然の成り行きではないかと思えます。こんな当たり前のことを誰も提案しないのは何故なのでしょう。現行の僅かばかりの個別実費負担等の考え方は品性卑しく、提供病院に失礼ではあります。ちなみに本年4月から「臨床研修病院入院診療加算」なる新しい制度が始まり、教育に貢献することを社会として厚く遇する仕組みが作られています。教育の重要性を啓発しているだけでは実効ある教育はいつまでも出来ないでしょう。移植医療にも同じ事が言えます。

このように仕組みの手直しのためのいろいろな提案、実施に向けての活動が求められるまで機は熟してきたのではないかと思うようになったこの頃です。あなたにはどのような提案がありますか？

兵庫腎疾患対策協会と国際ソロプチミスト神戸東



国際ソロプチミスト神戸東 初代会長
兵庫腎疾患対策協会 副会長
森村美佐子

兵庫腎疾患対策協会は創立15周年を迎え、おめでとうございます。私たち国際ソロプチミスト神戸東も今年は認証20周年のお祝いを盛大に祝うことが出来うれしいことでした。

国際ソロプチミストとは国際的に広く奉仕活動を行っている管理職・専門職に就く女性の団体なのですが、兵庫腎疾患対策協会の設立には少なからず貢献しているのです。私たちはクラブ5周年記念事業の一つとしてこの大プロジェクトに取り組み発足したものであります。

そもそも協会の現幹事 坂井瑞実会員が「腎大切にしていますか？」をテーマに掲げ保健奉仕委員会が中心になって5周年記念事業として取り組むことからスタート致しました。先ず松村満美子氏による記念講演、続いて「腎バンク推進業務の基金」として記念寄付。ここから本気で活動開始となったと思っています。

次に講演会。米国臓器移植コーディネータ（ミス パーバラ・ギル氏）を開催

また会員が街頭に立ち「腎バンク登録者拡大キャンペーン」にも参加し協力したこともありました。あれこ

れ苦労の紆余曲折を経て1990年9月兵庫腎疾患対策協会はめでたく設立に至ったのです。

当時は会員も若く元気にあふれ、またある意味では怖いもの知らず。神戸東でプールした資金でなんとか財団設立に持ち込めないものかと今は亡き神戸大学名誉教授 故 石神襄次先生や当時兵庫県保健環境部長 故 安井博和先生のお力にすがって直接貝原知事さんに掛け合いに行くという厚かましい暴挙を実行したことなどが懐かしく恥ずかしく思い出されます。初代会長 故 石神先生の適切な実行力、そしてその温かいお人柄にいつも引っ張って頂いていたことでした。クラブからは会長と保健奉仕委員長が役員メンバーに入って活動に参加して理解を深め協会の橋渡しをしています。又このころはチャリティーゴルフコンペが開催されて多くの会員は和やかな懇親をしております。

この15年の間に移植対策の進歩はもとより一般の理解も年々高まってきています。これからは若い人材に引き継いでいただき更にさらに移植に対する理解が深まり行きますよう祈る次第でございます。

第3回チャリティーゴルフコンペ開催

絶好の晴天と新緑の中、高室池ゴルフ倶楽部において、透析患者の方たちと移植者の方たち10名に、泌尿器科医師・透析医会などの医療従事者、兵庫腎疾患対策協会会員、及び、国際ソロプチミスト神戸東会員の方たちなどを含め参加者総数は41名でした。参加者は前回よりやや下回りましたが、楽しい一時を過ごすことができました。

入賞は全体と患者の方たちの部に分けて計算しましたが、今回も引き続き患者の方たちの健闘が目立ちました。次回も、多数のご参加とご健闘を期待しています。

開催日	平成16年3月28日(日)
会場	高室池ゴルフ倶楽部
全体の部	優勝 錦戸隆紀(兵庫腎疾患対策協会会員) 準優勝 高橋靖昌(高橋泌尿科)
患者さんの部	優勝 佐伯和則(腎臓移植者) 準優勝 村上耕一(骨髄移植者)

